

パブリックコメントの意見を踏まえて修正した箇所

【意見の（１）、（２）及び（３）による追加・修正】

1 指針策定の趣旨

（１）目的

わが国では、平成20年をピークに人口減少社会に突入しています。本市においても若年女性層の減少の影響から出生数の減少が進行し、今後は人口減少のスピードが増していくことが予想されており、人口の減少は避けられないのが実情です。

このような状況において、国では「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、特に地方の人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目指すこととしました。これを受け、本市においては、将来の展望を示す「人口ビジョン」とともに、人口減少の抑制や地域の活性化に向けた施策をまとめ、「那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

今後とも地域社会の活力を維持するためには、総合戦略に掲げた施策を実行し、それにより交流人口や定住人口の確保を図っていかねばなりません。それには、「住んでよかった」「戻ってきてよかった」「知ってよかった」と感じてもらえる人を増やし、その人達と一緒にまちの魅力や価値を高め、さらなる共感につなげていく取組が必要です。

本市の魅力について、市内外に対して効果的・効率的に情報の発信を行い、人口還流（※1）に確実に繋げていくため、シティプロモーション（※2）の指針を定めます。

（※1）人口還流：人口移動の現象。高度経済成長期の地方から大都市への人口流入とは逆の現象として、1960年代後半から大都市圏から地方への人口の還流がみられるようになった。還流のパターンとして、UターンのほかJターンやIターンがある。

【意見の（９）による注釈の追加】 ※ページ数は公表資料のページに該当

■ 4 ページ本文 4 行目「交流人口」：那珂市を訪れて観光したり、滞在したりする人。本指針では「市民協働サービスポータル（※11 ページ参照）」など、ICTによる「情報の交流」も含んでいる。

■ 5 ページ（3）の本文 9 行目「ブランドイメージ」：ブランドとは、人々の意識の中に知らず知らずに蓄積された価値の認識のこと。本指針では、「2 プロモーションのコンセプト」で後述するように、那珂市のブランドを「住みよさ」としている。

■ 同上「ターゲット」：「対象者」。シティプロモーションを進める上で、従来の「お役所的」ではない、たとえば、民間企業の「営業」「販売促進」「売り込み」といった「能動的な活動の対象」の意味で使用。

■ 5 ページ（3）②の本文3行目「**昼夜間人口比率**」：夜間人口（＝常住人口）100人当たりの昼間人口の割合。昼間人口とは、従業者や通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口のこと（国勢調査より）。この割合が100を上回ると大都市圏のように昼間仕事等に來ている人が多いことになる。那珂市は100を下回っているので、昼間は市外に出て夜間に帰ってくるという居住パターン、いわゆるベッドタウンであることがわかる。

■ 6 ページ③の3つめの○「**フィルムコミッション**」：映画等の撮影場所の誘致

■ 7 ページ（7）「**汚水処理人口普及率**」：公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽の3つで汚水を処理している人口を住民基本台帳人口で除したもの

■ 7 ページ中段「**コンセプト**」：全体を貫く基本的な観点・考え方

■ 7 ページ（1）①本文2行め「**ライフステージ**」：人の一生（ライフ）における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など、それぞれの段階（ステージ）

■ 10 ページ3（3）の本文7行目「**アウトソーシング**」：外部委託。「委託」という言葉より、より「企業的」な取組のイメージで使用。

■ 11 ページ（4）本文2行目「**市民協働サービスポータル**」：「まち・ひち・しごと創生総合戦略」の中で構築を目指しているシステム。「ポータル」は入口の意味。ウェブ上に設けた「入口」からこのサイトに入れば、行政情報に限らず、那珂市のあらゆる情報（例示しているイメージ図の中では、青の枠がその一例）が用意されており、また、問い合わせや意見の交換など、双方向型の情報交流が可能になるこのポータルサイトを活用して、市民（市に縁や関心がある市外の人も含む）の利便性を向上させる、情報交流・情報共有を通して「協働」を促進する、ひいては、那珂市の住みよさを認知してもらい、定住・移住につなげようというもの。

■ 11 ページ（4）本文4行目「**ウェブマガジン**」：ウェブサイトの一種で、雑誌の体裁をとっていることから「マガジン」と称される。

■ 11 ページ「(※1) ICT」：インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー（Information and Communication Technology）の略。「情報通信技術」と訳され、ITの「情報」に「コミュニケーション」が加わり、ネットワーク通信による情報・知識の共有を表現している。

■ 同「(※2) SNS」：ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネット上の交流を通して、友人・知人間はもとより、「友人の友人」といったつながりを通じて新たなネットワークを構築できるサービス。代表的なものでは、フェイスブック、ツイッター、ライン、ユーチューブ、インスタグラムがある。

■ 同「(※3) プッシュ型」：必要な情報をユーザーの能動的な操作を伴わず、自動的に配信されるタイプの技術やサービスのこと。通常、インターネットから情報を得る場合に、該当するウェブページを開いて自分で情報を引き出す（プル型）が、プッシュ型のサービスでは、サービスに登録するなど設定しておけば、情報が自動的に送られてくる。